

甲斐の金山から

令和4(2022)年3月25日 第99号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報



多くの皆様のご理解とご評価に支えられて25年。おかげさまで1997年4月の開館以来、地元から、県内外から、多くの方がお立ち寄りくださる博物館になっています。ひとつの節目であるこの年を迎えるにあたって、記念イベントも盛りだくさん。長年取り組んできた日本砂金地図も、応援団の方々のご協力をいただき全県の砂金サンプルが揃い、ひとまずの完成となり、着々と進化しています。これからも金山・鉱山専門のガイダンス館としてトップランナーの意識をもち、地域に根差した歴史を伝え、また訪れた皆様が楽しい時間を過ごせるような施設づくりに努めてまいります。

☞ 関連イベント詳細は本誌8ページ

続々・周年雑感—開館25周年を迎えた春に—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

当館は、平成9(1997)年4月24日に、当初は湯之奥金山資料館の名称で開館しております。以来、この春4月で、開館25周年となります。全国的に見ても珍しい金山遺跡の歴史に特化した公立博物館で、それが実に四半世紀の歴史を持つことになるのであります。

今回とほぼ同じタイトルで『博物館だより』第78号と第80号のこの欄の記事があって、ともに開館20周年を迎えるタイミングでの話題をのせています。そして、今回は開館25周年、すなわち5年が経過したのです。

思い返すと、開館20周年の前年の2016年に、当館初代館長の谷口一夫さんの急逝にあっていました。その悲しみを乗り越えての20周年でありました。そして今回、25周年を目前にした2022年2月19日に、開館当初よりずっと当館の運営委員会の委員長をお勤めいただいた萩原三雄さんが、やはり急な病状悪化により他界されてしまいました。

この運営委員会というのは、博物館法(昭和26年法律第285号)第9条の博物館運営の状況についての評価、という課題に関して協議をお願いするもので、同法第20条に規定される博物館協議会に相当します。その舵取りの大任を四半世紀にわたって執っていただき、時々は何くれとなくご指導いただいていた、いわば金山博物

館の恩人とも言える存在でした。そのありし日の面影を下段にのせました。

実のところ萩原先生のご恩はさらに深く、昭和の終わり頃までさかのぼって、開館以前の湯之奥金山の総合学術調査の時から始まっていました。それまで伝説とされていた下部温泉の奥のお山にある武田氏の繁栄の裏付けの一つをなしていたとも伝えられてきた金山について、考古学を中心とした学際的な調査研究の光を当てたのが、まさにその総合学術調査(平成元年度から3か年で実施)であり、その成果によって当館の開設が導かれ、併せてその年の初秋に湯之奥金山遺跡群のうちの1つ、中山金山が国史跡の指定を得ることになりました。

こうした一連の動きの代表としてあったのが谷口初代館長であり、萩原先生は右腕となって、湯之奥金山遺跡群の学術的な説明の軸を定め、それを推し進める重要な活動の実務の要としても多くのご尽力をいただいていたのであります。

また開館した後も、2003年2月22日に「甲斐金山研究の展望」、2017年6月10日に「鉾山史研究の現状と課題—鉾山臼と金製錬技術を中心に—」といったご講演をいただくなど、金山遺跡調査研究の普及啓発の労もとっていただきました。特に後者の講演は、開館20周年記



念講演としての位置づけでもありました。

話をここで“周年”のことに進めます。だいたい以前のこの欄(第80号)でも同様に述べておりますが、世の中なぜそんなに周年などということにこだわるのでしょうか。周年とはずれますが、この『博物館だより』も発刊を重ね、今号が第99号ということになっています。次回には100号という記念すべき号となりますが、このあたりの感覚はどこからくるのでしょうか。

人は、誕生の時からその生涯を閉じるまで、様々なアニバーサリーやメモリアルを迎え、往々にしてそれぞれに思いを込めた演出がなされます。特別な節目において日常的な継続の周辺に目を配り、節目の意味を考え、その先を思い描く、ないしは展望するための仕掛けだと思われまします。また亡くなった後でさえも、何百回忌だとか、没後何十年また生誕百何十年といった振り返りがなされることがよくあります。このような周年においては、生前の徳などを偲んだり、後の時代まで続く功績を讃えたり、またその時点での再評価をするといった点に意味があるように思われます。

さて、当館の25周年ですが、全国の多くの博物館施設などでは5年ごとに周年行事が展開されるのが目にされます。当館でも記念行事が考えられているわけが、そのための予算措置は次の30周年にとし、本年度の諸行事には大部分について“25th ANNIVERSARY”とか「25周年記念」という冠をかぶせていくものの、原則的

に通常の予算体勢で進められることとなっております。あまり派手なことはできませんが、ここまで見てきたような周年の意味がしっかり汲めるよう運営されていくものとなっています。

以上、開館25周年をテーマに雑多に述べてきましたが、いま、黄金週間から本格的な夏に向け、アフターコロナといわれる状況の中で25周年をどう盛り上げていくかが重要です。『博物館だより』今号や公式サイトの中に、そうした情報が多々盛り込まれておりますので、それらを参照のうえ、ぜひ四半世紀の歴史をもつ湯之奥金山博物館にお運びをくださるようお願い申し上げます。

ここで、前号のこの欄の「しんてき先生のこと」の記事中に訂正すべきことがあります。挿図5の碑面下部の盃の枠の中にある文字を「氏子中」としておりましたが、この3月12日開催の館長講座で同名のお話をする準備作業の中で、「筆子中」と読むべきものと修正にいたしました。大切なことがらでありましたので、この場で訂正し、お詫び申し上げます。

最後に、こうして開館25周年についておめでたいという趣向を滲ませているときでさえも、絶え間なく戦火に苦しんでいる国のようすが報道されています。一日も早く平和と安寧が取り戻されるよう衷心より祈念して筆を置きたいと存じます。



これからの 館長講座&「いでさんぽ」 は・・・

第25回 館長講座 シリーズ“峽南の考古学”

「峽南の鋼製トラス橋の歴史を考える」

日時:2022年4月24日(日) 13時30分～

第14回いでさんぽは 検討中

※今後の開催予定や詳細は、決定次第、博物館HP等でお知らせします。

湯之奥金山博物館 開館25周年を祝して 記念イベント続々!

開館記念日
1日限りの
Special Day

来る4月24日(日)この日ご来館くださった
すべてのお客様に博物館からプレゼント☆

- 展示観覧、砂金採り体験、共通セット券の全てのチケットが10% off
- チケットご購入くださったお客様にもれなく、ほっこり笑顔になる“貴石小物”プレゼント
- 館長講座 シリーズ“峡南の考古学”同日開催



常時開催!
楽しい
館内イベント

金が採れるのは当たり前、銀が採れたら超ラッキー。砂金採り体験室の
金銀同時に楽しめる「GET! GOLD&SILVER」は2022年も継続開催!



☆友達同士で、親子で、きょうだいで! 金山を楽しく学習しながらスタンプを集めよう!

博物館展示室をご覧になる方にはどなたでも挑戦権があります。「もーん父さんからの挑戦状・ゆるーいスタンプラリー」常時開催中。

☆加えて新たな 金山謎解きスタンプラリープロジェクト着々と進行中・・・

その名も「もーん父さんからの挑戦状 第2弾 ゆるくないスタンプラリー」COMING SOON!

2022年上半期(4月～9月) 博物館イベントスケジュール

- 4月24日(日) 第25回館長講座「峡南の鉄鋼トラス橋の歴史を考える」
- 6月5日(日) 25周年特別記念講演会「鉱山史研究のいま」 講師/井澤英二先生・久間英樹先生
- 7月24日(日) おしえて!みやもん先生 化学実験教室 14回
- 7月30日(土) 砂金掘り大会 22回
- 7月31日(日) 砂金甲子園 19回
- 8月11日(木・祝(山の日)) 激烈☆おやこ金山探検隊 22回
- 9月13日(火)～20日(火) みのぶ町民ウィーク(身延町民限定・常設展示室無料開放期間)

ゴールデンウィーク2022☆4月29日(金)～5月5日(木・祝)※5/6(金)は振替休館

コロナ禍で臨時休館が重なり、ゴールデンウィークも静かだったこの2年間。ゴールデンウィークらしい賑やかさを取り戻したい今年も企画満載でおまちしています。

- 5月5日限定☆チケットを購入した小学生以下のお子様へBIGなプレゼント!

「何がでるか? たまごくじ」※先着100名・景品がなくなり次第終了

- 上記期間中、砂金採り体験室では純銀粒・貴石増量☆

- ハイスピード砂金採り～60秒一本勝負・博物館スタッフに勝利せよ～

砂金採り体験室で突然始まるミニゲーム。大人から子供まで誰でも参加OK☆1分間のパンニングでキミは砂金が何粒採れる? 勝負の相手は砂金採り百戦錬磨の博物館スタッフ!? ※参加無料・不定期開催。

※すべてのイベントは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対応策を施した上で計画・開催しておりますが、今後の状況により変更となることもあります。その際には博物館公式HPでお知らせいたします。あらかじめご了承ください。



各自での感染症対策に留意しつつ、令和4年度も金山博物館で大いに楽しんでください

活動報告

よじごじDays 取材&O.A. (テレビ東京)

1月10日(日)

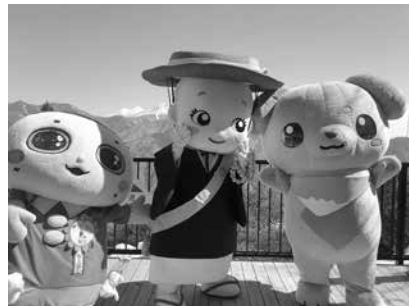
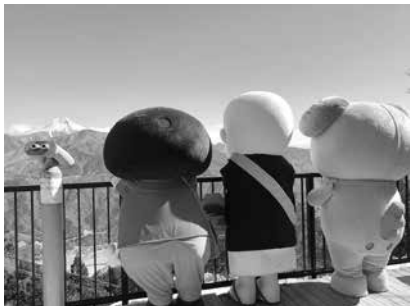
テレビ東京の「よじごじDays」という夕方の情報番組において、下部温泉郷特集の中で当館が取り上げられ、1月20日にオンエア紹介されました。この日のリポーターは、元NHKアナウンサーの登坂淳一さん。展示室を見学した後、砂金採り体験を本当に楽しんでいるようすで「ゆっくり家族と楽しみたいです」と、笑顔でおっしゃっていました。この日の出番はなかっ



たも一父さんとも笑顔で記念写真に応じてくださいました。

身延山ロープウェイでお出迎え

2月23日(水・祝)



富士山の日でもあるこの日、身延山ロープウェイのゴンドラ新装一周を記念したお客様お出迎えイベントに、も一父さんが行ってまいりました。会場には身延山のこぞう君、そして身延町公式キャラのみのワン。3人でロープウェイ麓駅、そして山頂駅でお客様をお出迎

えし、記念写真を撮影するなどしました。この日はよく晴れて富士山もくっきり見え、素晴らしい天候に恵まれた一日でした。ご来場のお客様からも笑顔がこぼれ、3キャラとも大役を果たすことができました。

第13回「いでさんぼ」は 県立博物館へ!

3月4日(金)

「下山・南松院さんの渡唐天神さんに会いに行くぞ!」というタイトルだった第13回いでさんぼ。山梨県立博物館で2月16日～3月4日まで期間限定公開されていた「渡唐天神像図」を鑑賞しました。これは身延町・下山の南松院さんから寄託されているもので、資料保存の観点からいつでも観ることができるわけではない貴重なものです。「いでさんぼ」当日が公開最終日で、絶妙なタイミングでした。紙幅上部には賛が、下部には梅の枝を右手に持ち、唐風の衣服を身にまとった渡唐天神さんが描かれています。

ご参加くださった方からは「身延の歴史がここでも息づいているとは知らなかった」、「館長

さんの説明で普段見ないようなところも面白く見る事ができた」とたいへんご満足いただけたようでした。



資源・素材学会春季大会 オンライン発表

3月9日(水)

学術分野における発表や講演会も、リモートがスタンダードになりつつあります。年に2回開催されている「資源・素材学会—鉱業史—」。当館は、湯之奥金山遺跡をはじめ金山史にまつわる内容で参加しています。秋季大会に続き、小松・伊藤の両学芸員が参加し、講演者として

研究成果や調査状況を発表しました。

伊藤学芸員は前回に続き、伊豆の土肥金山における3次元レーザスキャナを活用した坑道調査について第二弾として発表しました。小松学芸員は、鉱山臼の形態の違いによる粉体粒度実験の実践と検証について発表しました。

兵庫県猪名川町多田銀銅山オンライン講演会

3月10日(木)～30日(水)

兵庫県多田銀銅山悠久の館企画展としてオンライン講演会が30日までの配信で開催されています。「戦国時代～江戸時代初期の金山・銀山と武将たち」と題して、15世紀後半の大航海時代以降、世界各地で貿易が盛んとなり金銀需要が高まるようになったことを背景に、国内

でもその影響を受け、鉱山開発が盛んに行われました。鉱山を中心とした戦国時代の歴史背景を探るべく、佐渡金銀山、多田銀銅山、久喜銀山、甲斐金山を代表的鉱山として、5人の講師が事例紹介を行いました。小松学芸員は甲斐金山と武田信虎を担当しました。

新潟・佐渡金銀山遺構調査

3月16日(水)～18日(金)



当館と共同研究を長年行っている松江高専の久間英樹教授と、世界遺産登録を目前とする佐渡金銀山で坑道形状測量調査を行いました。山梨から佐渡島まではバス、電車、船を乗り継ぎ片道約8時間。現地に到着後、関係各所に挨拶し、限られ

た時間を有効に使うべく、早速調査に入りました。今回主とした調査場所はゴールデン佐渡内の大切山坑の煙抜き副坑道です。鉱石採掘をメインとされた主坑道だけでなく、換気や排水のために掘削された副坑道の調査は、当時の掘削技術や考え方などをより詳細に伝えてくれる職人たちの痕跡を興味深い形で確認することができます。この調査については次号にて詳細にお伝えします。

令和3年度 有料入館者数は11,856人

新型コロナウイルス感染症拡大から2年が経った令和3年度。状況が少し落ち着いては再拡大を繰り返し、全国の博物館をはじめとする集客施設、また観光業界には厳しい年となりました。当館も例に漏れず影響を受け、まん延防止等重点措置に伴い夏休み期間に約1ヶ月臨時休館となり、例年の50%程度の入館者数に留まりました。右表のような入館者数となりましたが、規制緩和後は客足の戻りが多少見られるようになりました。

月	開館日数	区分	有料入館者数			
			観覧	体験	共通	合計
3.4	26	大人	209	254	166	629
		中学生	0	12	9	21
		子供	2	70	40	112
		計	211	336	215	762
5	27	大人	353	292	241	886
		中学生	0	133	64	197
		子供	8	119	66	193
		計	361	544	371	1,276
6	25	大人	154	207	121	482
		中学生	1	8	2	11
		子供	2	41	57	100
		計	157	256	180	593
7	27	大人	208	400	319	927
		中学生	3	33	18	54
		子供	8	156	86	250
		計	219	589	423	1,231
8	9 10日から臨時休館	大人	94	191	136	421
		中学生	0	31	14	45
		子供	21	110	68	199
		計	115	332	218	665
9	15 12日まで臨時休館	大人	161	210	120	491
		中学生	2	3	7	12
		子供	6	64	37	107
		計	169	277	164	610
10	27	大人	259	428	335	1,022
		中学生	1	20	91	112
		子供	9	175	548	732
		計	269	623	974	1,866
11	26	大人	373	430	408	1,211
		中学生	1	10	67	78
		子供	6	103	260	369
		計	380	543	735	1,658
12	23	大人	237	205	155	597
		中学生	3	12	5	20
		子供	4	47	107	158
		計	244	264	267	775
4.1	26	大人	176	384	158	718
		中学生	8	19	7	34
		子供	4	111	55	170
		計	188	514	220	922
2	24	大人	119	118	91	328
		中学生	0	4	4	8
		子供	3	38	30	71
		計	122	160	125	407
3	26	大人	235	332	226	793
		中学生	3	51	13	67
		子供	77	95	59	231
		計	315	478	298	1,091
合計	281	大人	2,578	3,451	2,476	8,505
		中学生	22	336	301	659
		子供	150	1,129	1,413	2,692
		計	2,750	4,916	4,190	11,856

(2022年3月25日現在データ)

第10回「金山遺跡・砂金研究フォーラム」開催

3月19日(土)

博物館を拠点にフィールドワークをしている方々が金山遺跡や鉱山、砂金をテーマに発表し合う場、それが博物館応援団Au会主催の「金山遺跡・砂金研究フォーラム」です。今年も感染症拡大の影響を受け、2度の延期の末、3月19日に小規模ながら無事に開催することができました。多くの方が足を止めてご覧になっている

エントランスの「ポスターセッション」は6月頃まで掲示予定。また、「オーラルセッション」はYouTubeでの配信が予定されています。配信スタートの際は博物館HP、及びもーん父さんTwitter、facebookでお知らせいたします。

→ **YouTube** 「第10回金山遺跡・砂金研究フォーラム」

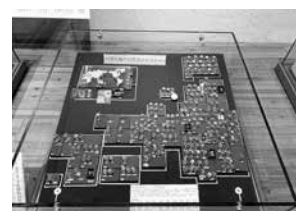
日本砂金地図 開館25周年を記念し完成!

～常設展示・「日本砂金地図」ができあがるまで～

開館から今日に至るまで、44万人を超えるお客様にご来館いただきました。顔を見せに立ち寄ってくださるお客様を数えれば、この人数はもっと増えます。もしかしたら当館は他の施設に比べ、応援して下さる“常連”さんが多いのかもしれないと思うほどで、本当に有難いことです。純粹に博物館を応援したいという一般の方々で組織された「博物館友の会」という協力会が発足したのは20数年前のこと。博物館応援団Au会の前身です。友の会に入会して下さった方の中には、砂金掘りを趣味にされる方もいらっしゃいました。当時、砂金掘りの趣味は今よりも遥かにマイナーでしたが、そんな皆さんが「川でこんな採れたよ。博物館で活用してください」という感じで時々、採れた砂金を置いて行ってくれました。

いくつか頂いたサンプルを何か活用できないかと、川の砂金掘りを主軸とした企画展を開催したのは2000年のことです。以降、館名が少しずつ世間に知られていく中で、多くの方が足を運んでくれ、貴重な砂金サンプルが集まっていきました。しかし収蔵庫に保管されていたのでは誰も見ることができない、だからといって毎回企画展で展示するわけにも…。そこで思いついたのが「ならば常設展示にすればいいんだ!いつでもお客さんが見ることができるように」

寄贈してもらった砂金の多くは、山梨、北海道、そして、山梨隣接県の河川名がちらほら…。手始めに、日本地図に



砂金採集ポイントをピン止めし、そこに砂金を展示するという手法で砂金を入れる丸いケースは比較的大きめでも展示ケース内には余裕がありました。この時はまだ47都道府県の砂金がいずれ集まろうとは、想像していませんでした。(関連記事「館だより」70号2014年3月)

実は、砂金地図完成に至るまでのこの目覚ましい加速は、25周年を迎えるにあたって華を添えようと皆さんの温かい気持ちによるもの。皆さんと博物館で一緒に作り上げてきた、どこの施設や博物館でも実現していない「日本砂金地図」は、多くの方々の興味を惹き、各方面から注目を集め、これからもこの先も、甲斐金山の歴史を、黄金の国ジパングの歴史を、砂金掘り師の夢をつないでいくものと思います。

今後とも変わらぬ厚誼とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。砂金サンプルコンプリートのご報告と感謝をお伝えさせていただくと共に、この展示はこれで終わりではなくこれからも続いていくことを合わせて皆様にお伝えさせていただきます。

全国各地の砂金を日本地図に並べた「日本砂金地図」は皆様の並々ならぬ努力と砂金掘りへの熱意、そして当館への深い愛情とご協力の賜物です。ご協力くださった皆様方のお名前をここに記すと共に、この場を借りて深い謝意を申し述べさせていただきます。

天野直人、諫山浩士、今北佳興、井村智子、大森直之、石田政明、岩井一泰、大野直樹、岡田玲子、岡本康司、勝本紳一郎、木内 寛、木村伸之、桐戸雅光、小瀧辰徳、小林 彰、齋藤勝幸、佐藤 淳、新町 正、鈴木正文、銭谷清人、高岡伸五、田村夏暉、寺田 昭、野中誠人、野村敏郎、野村祐介、人見仁菜、三木昌信、横山 実、中村軒一、バスカリーニ・ルカ、丸岡正明、山本有一、吉澤 功、朴 洪國、長谷部孝、林 謙治、原澤英美、原嶋 晃、平野岳・友梨、広瀬義朗、保坂信一、堀 浩樹、本間 純、松林 学、(五十音順・敬称略)

【令和4(2022)年3月現在 寄贈産地数 189件】

博物館応援団Au会主催 開館25周年記念講演会

『鉱山史研究のいま』

開館25周年を記念し、鉱山分野で広く活躍される二人の先生をお招きし、『鉱山史研究のいま』をわかりやすく、楽しくお話いただきます。普段なかなか聴くことができない遠方の先生方による最新の鉱山史研究を聞くことができるのはここだけ!!

講師



井澤 英二(いざわ えいじ)氏 専門分野：資源工学/鉱床

【プロフィール】

九州大学名誉教授/九州総合研究博物館 協力研究員/日本鉱業史研究会理事
日本を代表する鉱山地質学・鉱山史研究の一人者。国内ならびに世界各地の鉱山とその歴史を地質学的視点から研究している。1978年、日本鉱業史研究会設立。同会の理事も務め、博物館開館以来、調査研究にご尽力いただいている。



久間 英樹(くま ひでき)氏 専門分野：遺跡調査/ロボット工学

【プロフィール】

松江工業高等専門学校 教授
遠隔操作ロボットや3次元レーザスキャナを用いて全国各地の鉱山坑道跡やその周辺地形の測定を行い、その数は全国300カ所にのぼる。湯之奥金山でもこれらの手法を用い2008年から共同研究を展開し、その成果は当館展示にも数多く反映されている。
『明るく 楽しく 元気よく』をモットーに当館事業『モノづくり教室』の講師もお務め頂く。

先生方のお話を聞くことができるのは、この講演会だけ!

期日

2022年 **6月5日(日)**

午前10時～正午(午前9時30分受付開始)

会場

金山博物館 2階映像シアター

申込方法

お電話 または 当館へ直接ご来館でお申込みください ※定員になり次第締切

☎0556-36-0015 ※午前9時～午後5時。毎週水曜休館

※講師の都合、また感染症拡大状況によって日程・内容などが変更となることもあります。都度、博物館HPでご確認ください。

編集後記

毎年多くの方が楽しみにしているリバーサイドパークのカワツザクラですが、例年よりも冬の寒さが厳しかったせいか開花が3週間近く遅れ、咲き始めたと思ったら葉っぱも出てきて、見頃はほんの3日ほど。随分とせわしく、瞬間に見頃が過ぎ去っていった印象です。

2022年は25周年というメモリアルイヤー。感染症収束には至っていませんが、対策を講じ安心安全を前提としたうえで、多くの皆様楽しんでいただけるよう、知恵と工夫のできる限り賑やかにこの一年を盛り上げていきたいと考えています。スタッフの入れ替わりもありつつ迎える新年度。新スタッフ共に新年度もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

そうこうしているうちに、ふと気が付くと館だよりも次号は記念すべき「100号」です。

博物館だより

第99号 令和4(2022)年3月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先

TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん 